

2020 年度
災害看護学（4 年次）

2020 年 6 月 4 日（木）

防災時の身の守り方

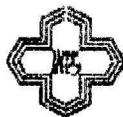
避難所運営ゲーム HUG

被害想定とハザードマップ災害図上演習（DIG）

災害対応シミュレーションゲーム クロスロード体験会

講師 日本防災士会長崎県支部 旭 芳郎先生 川浪 良次先生

学生感想



活水女子大学 看護学部看護学科

Kwassui Women's University, Faculty of Nursing

避難所運営ゲーム HUG を初めて経験したが、経験してみないと分からないことも多く、意外と難しい問題もあることが分かった。特に小さい子供のいる家族をどこに配置するか、喘息などの病気や精神疾患を持っている人は別室にすべきか、その別室は確保できるのかなど考えてみると多くの問題があったので、日頃からこれらの問題をどう解決していくかの策を考えておく必要があると思った。授業では子供たちが学校にいる時間は年間の 2 割弱しかないことを知り、この事実をうまく活用して災害時の対策を進めていく必要があるとも思った。また、クロスロード体験を行って、災害対応について yes か no か説明を加えて進めていくことで、みんなの価値観や考え方の違いを知って勉強にもなったし、どの意見にも正解はないけれど看護師の立場としてはどう行動すべきかということも考えて選択する必要があることを学ぶことができた。対策を考える 3 つの視点である自助、共助、公助と連携を柱に自分たちの命を守るための行動や対策を考えたいと思った。

最初に行った HUG では、避難所に避難してくる人は、事前にどんな人が来るかわからないため、どう配置するかを考える難しさを知った。実際に災害が起きた際には、配置は自分たちで行わなければならない。そのため、医療職として、どう配置すべきかを自治会の方などと協力しながら決める役割を担う必要があると学んだ。3 コマ目に行った DIG では、私は京に住んでいるため、災害時どこに避難すべきかを改めて考えることができた。私は、大学に入学してすぐに熊本の地震を経験した。引越してすぐのことだったため、どこに避難していいかわからず、長崎医療センターに避難してしまった。この際に、避難場所を知っていれば、避難すべき場所に避難することができたと思う。また、避難所が少ないことや街灯が少ないなどの問題を明らかにすることができた。4 コマ目に行ったクロスロードゲームでは、グループの人たちと災害時自分ならどう対応するか意見交換することができ、たくさん考える時間となった。どの質問に対しても、YES と NO どちらが正しいということはなく、答えを出しにくい質問もあった。今回受けた講義を災害時に医療職として行動できるように活かしたい。

私は、今回講義を受けて実際にあった災害時の様子や状況を理解することが出来ました。実際に災害時に現地に行った方のお話を聞くことはあまりないため、貴重な経験となり、実際にその場を見ていることを伝えられることがあるというのを学ぶことが出来ました。また、ゲームを使って学ぶことで自分以外の相手がどのような選択をし、その選択をした理由は何か聞くことにより新しい物事の見方、考え方を知ることができ良い勉強になりました。災害時は特に第 1 に命を守ることを優先すべきだと私は思っています。しかし、人によっては自分よりも誰かのためにという人の事を最後まで思いやることもできる方もいて凄いなと感銘を受けました。

私はこれまで大きな災害にあったことがなく現在住んでいる場所は災害の危険性は低い。そのため、安心している部分があり防災バッグも準備できておらず、震災や災害が起きたときにどこに避難するかなど災害時について家族で話し合ったりすることはほとんどない。災害が起こるかもしれないことを想定しながら住む場所を考えるだけでなく、いつ起こるかわからないからこそ日頃から準備をしておくことが重要であると学んだ。これまでにたくさんの地域で多くの災害が起き、被害を受けている。私たちが生まれるより前に起こった災害は知らないものも多くある。今回の講義では写真を見ながら災害時の様子を知ったり、ゲームを通して実際に起こった事例について考え様々な意見を出し合った。一つひと

つの災害を通して、災害時の避難の仕方や、避難所での生活のことなど今までの災害から学ぶことは多くあり、いつか災害が起こったときに生かせることがあると思う。そのため、今までの災害でどのようなことが起きて、どのようなことに気を付けなければいけないのか、日頃からできることはないか、など多くの人が知り、考える機会を作ることが必要であると考えます。

毎日のように日本のあちこちで地震や火山噴火などの様々な自然災害が起きているけど、今まではニュースなどがあってもあまり興味を持って見ていなかったり、自分の身にはそれほど影響がないため、自分のことのように考えることができていなかった。しかし、今回の講義を通して、今まで知らなかった災害の実態を知り、地域の住民として“備えておくこと”の大切さを感じた。住んでる家がある場所が地理的にはどのような所であるかを調べたり、万が一の場合に備えて非常用袋などの準備をしておきたいと思った。

今日の講義を通して、このように災害について議論し、考えることをやっておかないと、災害が起きてから、自分がどのように動くべきか分からないと感じました。災害が発生する前に、避難場所を把握しておいたり、非常食を準備しておいたりすることも大切だと改めて思いました。またそれに加えて、自分が住む地域がどのような地形の特徴を持つのかの把握もしなければならぬと思われました。実際に今日、大村市の地形の特徴を考え、災害発生時の改善点も見つけることができました。自分が住む地域も確認しておきたいと思います。最後に行った、自分がその状況に置かれたときにどのような行動を取るか、というゲームについては、一つ一つの状況が深刻で、両者の意見のそれぞれに納得できる根拠があり、難しいと感じていました。今日は冷静に考えることはできていたと思いますが、実際にその状況に直面した場合、かなり判断が鈍くなると思います。災害はいつ起きるか分からないので、できる準備は日々行っておく必要があると思いました。

今日の講義を受けて、災害について考えることができました。今までは、看護師としての意見での災害についてしか知らなかったけど、今日の講義で自助・互助・共助が必要であるということがわかりました。私は公助も多いと思っていたので、自助の割合が多いことに驚きました。また、避難所で人を振り分けていくゲームは、咄嗟の判断力が必要だったのでとても難しかったです。ゲームの中では、この人たちはこの位置にいてもらおう、などゆっくり考えることができたけど、実際は考えているうちにどんどん人が押し寄せてくるので、避難所の管理者はとても難しい役割をこなしているのだと知りました。クロスロードゲームでは、迷った設問もあったけど、他の人の意見を聞くことで学びを探めることができました。人間として心理的な面を重要視するか、それとも組織の中の一員として判断するか、その人によって、またその場面によって変わっていくとわかりました。災害時は、特にストレスでピリピリしてしまいそうだけど、その中でもその人が考えた判断なので、そういう判断を批判したりせずには、他人の意見も受け入れていく必要があると思いました。

日本では多くの災害が起きる。現在もニュースで関東地方での地震速報や、鹿児島での大雨洪水警報など突然の出来事に日本国民は驚きを隠せない状況だ。何が起こるか分からない状況で災害時の対策について知識を深め、実際に起きた時にすぐに動けるようにすることが大切である。私はこれまで災害の授